

登録コード	L2441800	開講年度	2026				
担当教員	伊藤 尽			副担当			
授業科目	英語学発展演習						
英文授業名	Basic Seminar on English Philology I						
授業タイトル	Reading and Interpretation of Macbeth						
単位数	2	対象学生		講義期間	後期	曜日・時限	月曜・5 時限
講義室	人文第 5 講義室		遠隔授業科目		読替科目		
信大コンピテンシー	該当						
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素			【授業の達成目標】			
	2 0 2 2 Lカリ, 2 0 2 1 Lカリ						
	【2022年度以前カリキュラム対象】グローバル社会において、多様な文化を理解し、自らの文化を発信できる外国語能力			英語の歴史的なニュアンスを理解し、英語文化の歴史的に多層的な層を踏まえた上で、国際的な感覚で自らの思考を発信できる外国語能力を身につけます。			
	2 0 2 6 Lカリ, 2 0 2 5 Lカリ, 2 0 2 4 Lカリ						
	【2023年度以降カリキュラム対象】人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身についている。【思索力・受容力・批判力】			英語の読解・発表能力、戯曲の解釈、初期近代英語の時代の英語学的知識、文献学的知識と理解を深め、それらについて応用発展した技能を身につけることができる			
授業で学べる「テーマ」	芸術文化、多文化協働						
全学横断特別教育プログラム							
授業の概要	William Shakespeareの4大悲劇の一つであるMacbethの研究初步について学び、各自の学びの成果を発表する演習形式の授業。 現代英語・初期近代英語の作品を読み、先行研究から多くを学び、それを要約し、批判するゼミナール形式の基礎を身につける。シェイクスピア作品をはじめとするイギリスのJacobeanの時代の英語学的・文化的・文献学的知識を身につけ、初期近代英語で表現される考え方、感じ方を理解できるようになる。 英語でシェイクスピアのblank verseの韻律で台詞が、発展したレベルで言えるようになる。						
授業計画	第1回：オリエンテーション：使用テキストの紹介：発表グループ・順番の決定 以下の回では、学生はIntroduction, Text, Annotationsを読み、台詞の英語的特徴、人物描写、台詞の意図、文化的背景などに焦点を当てながら、各自が持ち時間15分以内でpresentationを行う。 第2回：Macbeth 3幕4場の英語の解説と解釈の発表 第3回：Macbeth 3幕5場の英語の解説と解釈の発表 第4回：Macbeth 3幕6場の英語の解説と解釈の発表 第5回：Macbeth 4幕1場の英語の解説と解釈の発表 第6回：Macbeth 4幕2場の英語の解説と解釈の発表 第7回：Macbeth 4幕3場の英語の解説と解釈の発表 第8回：Macbeth 5幕1場の英語の解説と解釈の発表 第9回：Macbeth 5幕2場の英語の解説と解釈の発表 第10回：Macbeth 5幕3場の英語の解説と解釈の発表 第11回：Macbeth 5幕4場-5幕5場の英語の解説と解釈の発表 第12回：Macbeth 5幕6場-5幕7場の英語の解説と解釈の発表 第13回：Macbeth 5幕8場-5幕9場の英語の解説と解釈の発表 第14回：Macbeth in Legendの要約と批評 第15回：Macbeth in Mindの要約と批評						
成績評価の方法	授業内での発表と発言（質疑応答）・発表準備を90%とし、期末レポート10%とします。						
成績評価の基準	授業内の発表ではテキストの内容を把握し、人前に内容をまとめて発表でき、質疑応答に参加する場合に「基準にある」と評価します。 テキストの内容を正確に理解した上で、自分なりの視点から考察できることを「やや上にある」と評価する。 テキストの内容や授業中の議論を踏まえ、自身の考察を参考文献などの具体例とともに提示できる時「かなり上にある」と評価する。 授業で扱った内容と関連する参考文献を調査し、独自の視点からその内容の補足や批評を提示できる時「卓越している」と評価する。 期末レポートは、授業の内容を踏まえてレポートの形式に則った書式で執筆できることを「基準にある」と評価する。 独自の視点を持ち、根拠となる例を明示しながら論じることができるとき「やや上にある」と評価する。 先行研究を踏まえた上で、それに自分の意見を根拠を明示しながら加えることが出来ることを「かなり上にある」と評価する。 先行研究を踏まえた上で、それらに客観的な批評を加え、さらに根拠を明示しながら自分の意見によってそれらを補うことができることを「卓越している」と評価する。 英語史IおよびIIを受講していることが望ましいですが、履修していなくても受講できます。但し、授業内での発表を行う前に、必ず指導教員と綿密な打合せをすることが求められます。						

成績評価の基準	学生からの質問、相談への対応として、授業後のコメントシート、またはe-alpsでの質問に答えます。また月曜日の昼休みのオフィスアワーも利用可能です。
事前事後学習の内容	事前学習：set textを熟読/精読し、内容を理解した上で、要約・批評の原稿を作り、presentation の練習を十分に行う 事前準備中の疑問はe-Alps 上の会議スレッドで、受講者全員で議論して共有する 事後学習：他者の発表を聴き、質疑応答を踏まえて、受講者間で議論を行い、次の発表のための準備を行う
履修上の注意	履修前にセットテキストを入手して、既に読んでおくことが望ましいです。 資料室にある資料、図書館にある資料、論文を読んで、set textの内容を理解した上で、疑問などe-alpsに挙げて、議論に参加してください 英語史IおよびIIを受講していることが望ましいですが、履修していなくても受講できます。但し、授業内での発表を行う前に、必ず指導教員と綿密な打合せをすることが求められます
質問、相談への対応	e-Alps上に質問スレッドを立ち上げるので、そこに質問を記入して、受講生同士での議論を活発に行ってください。 教員はその流れを見ながら、アドバイスや答を記載します。 スレッドに記載できない相談などは、メールにて対応して、改めてアポイントメントを取って資料室などで面談を行います。
教科書	William Shakespeare. Macbeth. Ed. A. R. Braunmuller. Updated ed. The New Cambridge Shakespeare. Cambridge University Press, 2008.
参考書	William Shakespeare. Macbeth. Ed. Sandra Clark and Pamela Mason. 3rd Series. The Arden Shakespeare. Bloomsbury, 2015. William Shakespeare. The New Oxford Shakespeare. The Complete Works. Modern Critical Edition. Oxford University Press, 2017.